

# 外来種タイワンリスの目撃増加 小学生 1万人超の調査で明らかに ～こども「いきいき」生き物調査 2019 調査結果のお知らせ～

横浜市環境科学研究所では、令和元（2019）年の夏休みに、横浜市立小学校 342 校の児童を対象に、家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらう市内全域調査を実施しました。169 校、11,511 人の児童からの回答結果がまとまりましたので、お知らせします。

外来種のタイワンリスが増加傾向であることや、ヒキガエルが減少傾向であること、市内一部の地域にしか見られないハッカチョウ（鳥）の現況など、今後の生物多様性保全に資する貴重な情報を得ることができました。

## 1 事業名称

こども「いきいき」生き物調査 2019

## 2 目的

調査を通じて地域の自然や生き物への関心を高めてもらうとともに、生物多様性保全に資する基礎データを取得することを目的に実施しました。

## 3 調査方法

横浜市立小学校 342 校の 5 年生 30,374 人（令和元年 5 月 1 日現在）に調査票（右図）を配布し、過去 1 年間（平成 30 年 9 月 1 日～令和元年 8 月 31 日）に、「家や学校の近く」で見つたり、鳴き声を聞いたりした生き物について、○をつけてもらいました。

## 4 調査対象とした生き物

調査対象としたのは、次の 9 種類の生き物です。生き物の分類（同定）のしやすさに配慮しながら、市内の自然環境を特徴づけるもの、減少または増加傾向にあるものなどを選定しました。

- ツバメの巣
- リス
- カブトムシ
- 白サギのなかま
- ふきのとう
- ハッカチョウ
- ヒキガエル
- サワガニ
- カマキリのなかま

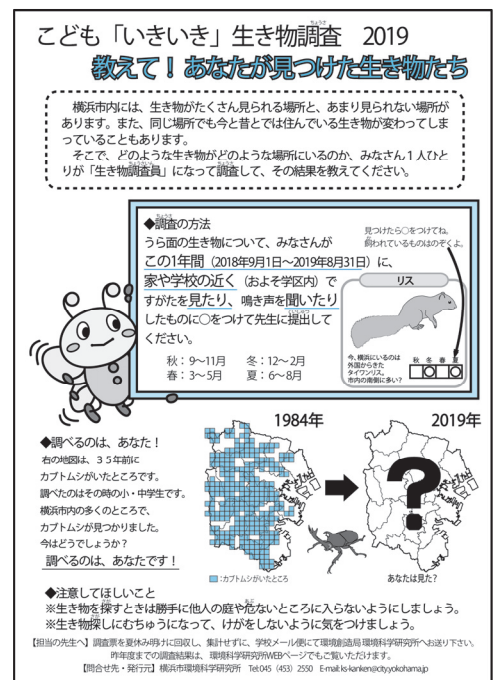
※9種類のうち、リス（タイワンリス）、ハッカチョウは市内において外来種です。

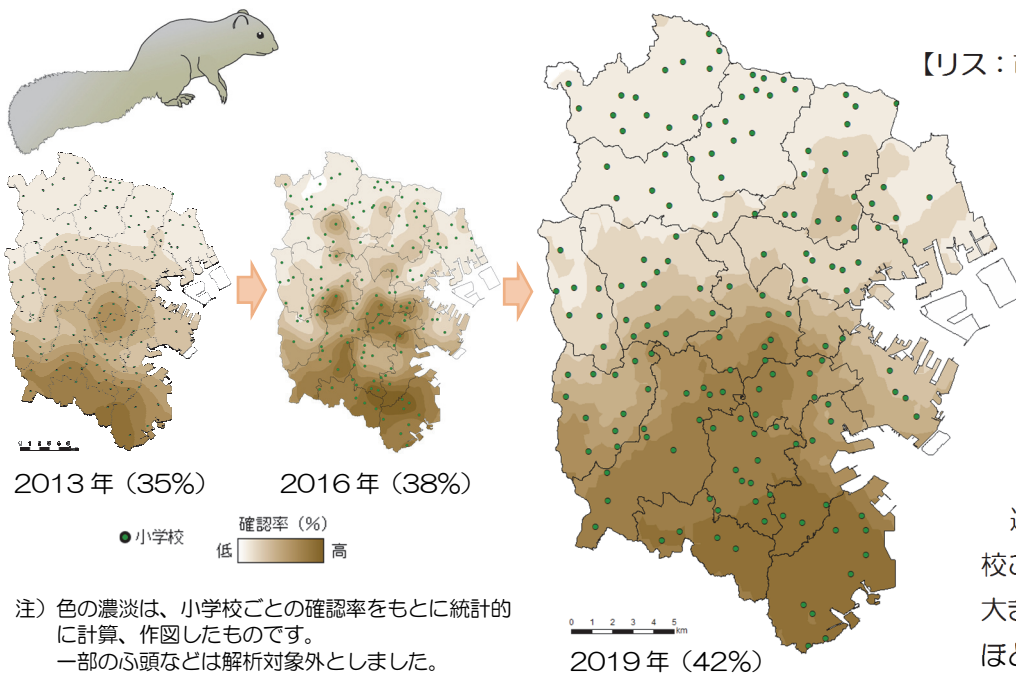
## 5 調査結果

学校ごとに、対象の生き物を見つけた割合（以下、確認率）を集計し、その情報をもとに市内全域における確認率の高低を色の濃淡で示しました\*。裏面に「リス」、「ハッカチョウ」について調査結果をお知らせします。

本調査は毎年実施しており、今回で7年目になります。1万人以上の児童が参加することにより、横浜の生物多様性を知る上で、非常に精度の高い調査結果が得られています。毎年調査している「ツバメの巣」は市全体の確認率が77%前後で推移しています（今年はやや減少）。また、2年おきに調査し、里山的環境を指標する「カブトムシ」は毎回、70%前後の確認率となっています。全9種類の結果については概要版（別紙）および研究所WEBページに掲載した報告書をご参照下さい。

※作図にあたっては、GISソフトを使用し、1校あたりの回答数が10人以上であった160校のデータを対象としました。





**【リス：市全体の確認率 42%】**

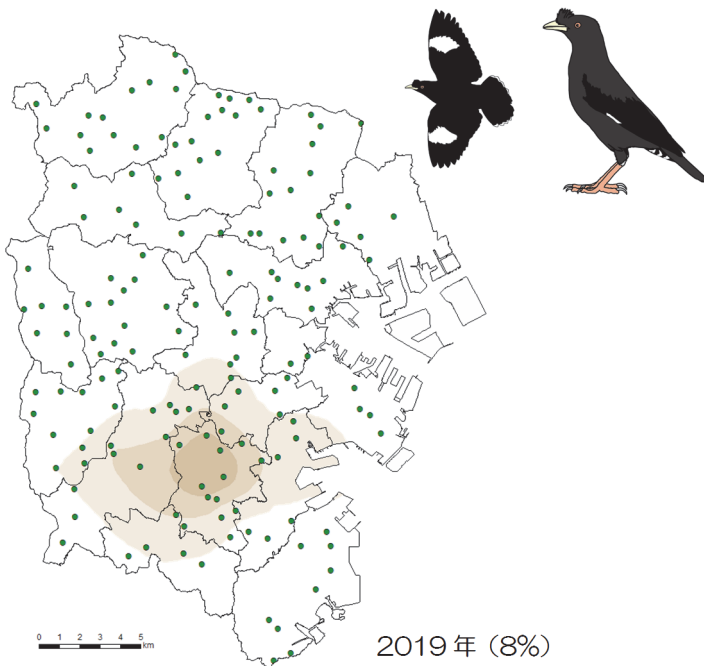
市内で確認されるリスはもともと横浜には生息していなかったクリハラリス（台湾リス）です。南部を中心に生息し、北部には生息していないか非常に少数です。

過年2回の調査同様、学校ごと、区ごとの確認率は大きくばらつき、市の南部ほど確認率が高い傾向がはっきりと表れました。

注) 色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部の心頭などは解析対象外としました。

市全体の確認率は、2013年の35%、2016年の38%から増加し、42%になりました。2013年以降、いずれも統計的に意味のある増加を示しています。今回は確認率の高いエリアが大きく北上するような傾向は見られませんでした。市の南部では過年度に見られた確認率の低いエリアがなくなっていました。

横浜市全域を対象としたリス調査は本調査のみで、リスの増加傾向を示す、非常に貴重なデータが得られました。



**【ハッカチョウ：市全体の確認率 8%】**

港南区、磯子区などに定着している外来種の鳥で、見られる地域は非常に限定的です。一方で、生息地では集団で見られることもあります。市内全域に生息するムクドリと似ていますが、調査結果はハッカチョウの現在の生息状況をよく表しているものと思われます。

江戸時代の屏風絵に描かれるなどし、古くから親しまれてきたようですが、飼われていたものが逃げ出すなどし、国内数か所に定着しています。市内で初めて見つかったのは40年以上前ですが、その後、増加し、地域によっては鳴き声やフンにより害鳥として認識されています。

近年では、旭区や保土ヶ谷区北部の帷子川沿いなどでも目撃情報があり、今後の変化が注目される場所ですが、現状を知る重要なデータが得られました。

小学校、確認率に関する凡例および注意事項は、リスと同じです。

**6 その他**

結果の詳細は、報告書として横浜市環境科学研究所 Web ページに公開するとともに、全小学校へ配布します。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/ikiiki.html>

学校ごとの確認率は観察場所へのアクセスのしやすさなど、さまざまな要因により変動し、必ずしも生き物の生息密度を表すものではありません。調査は長期的な視点での解析・考察が重要であり、来年以降も対象とする生き物の種類を変えながら継続実施する予定です。

お問合せ先
環境創造局環境科学研究所長 百瀬 英雄 Tel 045-453-2550